

**脳神経外科病棟での入院患者における効果的な下剤の使用方法について
～開頭腫瘍摘出術の患者に焦点をあてて～**

1. 研究の対象

2017年11月1日～2021年10月31日に高知大学医学部附属病院の脳神経外科病棟に入院し、開頭腫瘍摘出術をされた方。

2. 研究目的・方法

脳神経外科病棟では手術後の排便の管理に困っている方が多く、下剤を内服していても便秘が改善しない方もいます。そのため、電子カルテからこれまでの下剤の使用方法の見直しを行い、集計を行うことでより良い下剤の使い方を分析します。

研究期間:倫理審査承認後～2024年3月31日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

対象患者の背景として年齢、性別、BMI、疾患、入院時の意識レベル（JCS : Japan Coma Scale）を抽出項目としています。また、効果的な下剤の使用法との関連因子としては処方された薬剤（酸化マグネシウム、センノシド、ピコスルファートナトリウム、グーフイス、アミティーザ、大建中湯）を対象症例からの抽出項目としています。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

住所:高知県南国市岡豊町小蓮 185-1

TEL:088-880-2548

担当者の所属・氏名:高知大学医学部附属病院 看護部
田渕桃子（研究責任者）、三福渚、門脇沙也果、久保桃子